

全学向け日本語コース 漢字Ⅲ

安井澄江

要旨

2020年、全国で新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、名古屋大学から全学に向けて教育活動の指針が示された。その指針に従って、2020年前期の国際言語センターの日本語コースの授業は、オンラインでの実施となり、名古屋大学の学習支援システム NUCT と Zoom を用いて、できる限り可能な方法を模索した。

本稿では、全学向け日本語コース 漢字Ⅲで実施した授業の方法、学生の成績、アンケート結果について報告する。受講生は、オンライン授業の利点を生かして、学習の成果を上げることができたが、清濁音・長短音の区別の習得については、依然課題として残った。

キーワード

オンライン授業、学習支援システム NUCT、Zoom、清濁音・長短音の区別

1. はじめに

名古屋大学の学習試験システム NUCT と Zoom を用いた全学向け日本語コース漢字Ⅲで実施した授業の内容と方法、学生の成績とアンケート結果について報告する。

2. 授業概要

初級漢字を300字程度学習した学習者を対象に日本語能力試験 N3 レベルに必要な漢字（約500字）の習得を目指したクラスで、受講生は以下の2名であった。

A：中国人、大学院修士課程

B：中国人、研究生

登録は7名であったが、コース開始前に受講を取り下げた者が2名。他の授業と時間が重複して取り下げた者が1名。自国との時差のため受講が困難で取り下げた者が1名。初回のみ出席だった者が1名であった。オンライン授業によって、学生は世界のどこからでも受講が可能となったが、時差の問題は大きい。

テキストは『基本漢字500 (BASIC KANJI BOOK) Vol.2新版』(2017年、凡人社)を使用した。授業の進め方は、最初の15分を自習とし、小テストのための準備、その課の漢字の予習の時間とした。次の60分間はZoomを使用した双方向型の授業で、1) 前の授業で学習したかの漢字小テスト、2) その日の課の漢字の読み方を確認(ユニット2-1のことばの部分) 3) ユニット2-2 読み練習 4) 「知っていますか できますか」の部分を取った。最後の15分は各自で復習する時間とした。

3. オンライン授業の実施方法と成果

3. 1 実施に当たっての工夫

2019年までは、授業内の小テストの解答は手書き形式であったが、オンライン形式に合わせて、選択式に変えた。当初、Zoomのチャットに答の番号を打ち込ませる方法を考えたが、受講生が漢字圏(中国人)2名であったことから、小テストをZoomで画面共有し、問題文を読んで口頭で答える形式にした。2人に交代で解答させ、2回通り行い、すべての問題に答えさせた。また、受講生は、中国人のみであったため、個々の漢字の意味について説明する必要はなく、ことばの読み方に重点を置いて指導した。毎課、パワーポイントで読み練習のスライドを作成し、ドリル形式で練習を行った。書き方については、中国の繁体字や簡体字との違いに注意させるためにインターネットの漢字辞書のサイトをZoomで画面共有し、筆順のアニメーションを見せることもあった。特に非漢字圏の学習者の中には、「止め、はね、はらい」の違いを意識していない場合があるため、違いを明確に提示する必要がある。受講生は中国人のみであったので、それ

らを意識していると思われるが、日本で使用している字体を意識させるため、筆順のアニメーションを提示しながら、「止め、はね、はらい」の部分を示した。板書の代わりとして、Zoomの「ホワイトボード」機能を用いることもできたが、漢字の「止め、はね、はらい」を正確に示すことは難しいため、あえて用いなかった。

3. 2 教材配信システムの利用方法

教材配信、宿題・課題の提出とフィードバックはすべて、名古屋大学の学習支援システム NUCT (Nagoya University Collaboration and course Tools) を利用した。

利用した機能と内容は以下の通り。

- 1) お知らせ(サイト上に受講者に対するアナウンスを掲載する機能):
授業の日時と Zoom の URL、ミーティング ID とパスワードの告知。
- 2) リソース(資料を掲載する機能): 初回の授業に使用する教材の掲載。
- 3) 課題(課題の告知と提出先): 宿題(毎課)、課題(3回)、最終課題の解答の提出。指示と資料を掲載。

受講生は、テキストに直接あるいは紙に手書きしたものを写真に撮ってアップロード。宿題や課題の締め切りは、授業が行われた週の日曜日23:55に設定した。研究や他コースの宿題もあることを考慮し、週末にかけて時間の猶予を設けた。

- 4) フォーラム(作文や意見などを書いて投稿し、受講者同士がシェアする機能): 初回の授業後に学生に課した自己紹介文を掲載。
- 5) メッセージ(連絡機能): 宿題や課題のリマインダーの送信。学生との連絡。

3. 3 学習成果

最終試験の成績は、学生 A は95.0点、学生 B は95.3点で、いずれも高得点であった。2名に共通する間違いとして、清音/濁音と長音/短音の違いは依然残った。

- 1) 清音を濁音にした間違い:「事故」(じご)、「簡単」(かんだん)
- 2) 濁音を清音にした間違い:願書(かんしょ)台所(だいところ)
- 3) 長音を短音にした間違い:「信号」しんご
- 4) 短音を長音にした間違い:「旅館」りょうかん

3. 4 コースアンケートの結果

コース終了時にアンケートを実施した。自由記述の回答は以下のようであった。

質問) この授業の中で、これからも続けていったら良いと思う所はどこですか。

また、良くしたほうが良い所はどこですか。

(原文のまま)

学生 A: 電子教材を使うことが欲しい:使いやすいし;環境保護するため。

先生、いつも優しくかった。ありがとうございました。

学生 B: 先生の教え方が大好きです!つまらないを感じません。勉強の雰囲気も楽です。

4. おわりに

オンラインでの授業は、はじめての実施であったが、2名の受講生が最後まで続けて学習できた。2名は学習スタイルに多くの共通点があり、「教師に質問しやすい」「家で勉強できる」「集中しやすい」など、オンライン授業の利点を生かして、学習の成果を上げることができたとと言えるが、日本語漢字の清濁音・長短音の区別の習得については、依然課題となった。オンラインでの授業で、受講生にも講師にも様々な制約があったが、できる限り可能な方法を模索しながら、学生の学習へのモチベーションを保ち続けることができるように支援していくことが重要になるであろう。

今後は、NUCTのフォーラムを更に活用し、学習者が漢字を使って書いた文書を互いにシェアすることにより、学習者間のインターアクションを活発化させたい。

注

- 1 Zoom とは Zoom ビデオコミュニケーションズが提供する Web 会議サービスの
ことである。

